

東奥日報

2019年(令和元年)9月20日金曜日(16)

八戸 八戸市の八戸工業大学などは17日、八戸圏域の産学官の共同研究を推進する組織「はちのへオープンイノベーション・プラットフォーム」(HOP、会長・長谷川明

八戸工業大学長)を発足した。地域の課題を解決するための研究会や勉強会を結成したり活動を支援する。息の長い活動をするため、参加はあくまで個人的立場というネットワーク組織だ。(月館慎司)

地域の課題掘り起こせ

八工大など 産学官で共同研究組織

同市の八戸プラザホテルアーバンホールで設立総会と記念講演会が開かれた。HOPの目的は、八戸圏域の科学技術や研究開発に関する人・情報の交流・活用を活性化させる。既存の研究会・勉強会組織を横断



設立趣旨を説明する高橋教授

的に連携させるとともに、新規活動創出を支援。情報やノウハウの集約・共有などの効果が期待されるとい

のを防ぐため、個人の任意参加とする。記念講演会には大学、地元企業、行政機関の関係者ら約80人が出席。同大学社会連携学術推進室次長の高橋晋教授は設立趣旨説明の中で「地域の課題をはじめ、人材育成など企業の抱えている悩みを掘り起こす場にした」と述べた。先行する同様の組織である関西ネットワークシステムの結成に携わった堂野智史さんが講演した。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」